



幸樹

こう じゅ

第 53 号

2019 年 8 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

夏まつり！ 第22回地域交流カフェ

●日時 8月20日(火)、12時～3時

●場所 さんしょうリビング

●屋台－焼きそば、かき氷、練あめ、ところてん…

参加自由



宮城真理子さんの夏休みガラス工芸教室

8月18日(日)、あつまーれ幸樹

☞詳細・申し込みは宮城真理子ホームページへ



キーホルダー



小物入れ



ふうりん

第3回在宅看取りを語り、考える会の報告

7月2日(火)、「第3回在宅看取りを語り、考える会」を行いました。今回は、小菅紀子さん(健和会訪問看護ステーション・看多機統括所長)を講師にお招きして、看取りの事例からの教訓やアドバンス・ケア・プランニングの必要性などについてお話していただきました(写真)。以下、概要を紹介します。



招きして、看取りの事例からの教訓やアドバンス・ケア・プランニングの必要性などについてお話していただきました(写真)。以下、概要を紹介します。

どのような医療・ケアを望むか 「人生会議」で

最期まで自分らしく尊厳をもって生きるには、万が一の時に備えて、自分が大切にしていることや、どのような医療・ケアを望んでいるかについて、自分で考えたり、信頼する人たちや医療・介護関係者と話し合ったりする「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」のとりくみが重要です。これを「人生会議」と呼び広めようと提唱されています。こうした取り組みでの意思決定が「在宅看取り」に大きく影響します。

なぜ、アドバンス・ケア・プランニングが大切かというと、

- ・誰でも、いつでも命に関わる大きな病気・けがをすることがある
- ・命の危険が迫った状態になると約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなるといわれている
- ・これからの治療やケアについて、自分の考えを周りの信頼する人たちと事前に話し合っておくと、もしもの時に、自分の考えに沿った治療やケアを受けられる可能性が高い、からです。

また、心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、何度でも繰り返し考え話しあいましょう。

人生の最終段階では、判断に迷う場面が多くあります。そうした場合、人間尊重、益になるように(害にならないように)、社会的適切さの3原則などをふまえて、本人・家族、援助者が相互の話し合いを通じて合意をつくっていく取り組みが大事です。

2018年3月に改定された厚労省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」でも、最後まで本人の生き方(=人生)を尊重し、医療・ケアを提供することが大事だとして、「終末期の医療」から「人生の最終段階における医療・ケア」と呼び方を変更したこと、医師等の医療従事者からの適切な情報と説明がなされ、本人が医療・ケアチームと

十分な話し合いをおこない、その本人の意思決定を基本にした人生の最終段階における医療・ケアを進めることが最も重要な原則としています。

もしバナ
ゲームで

自分の価値観・思いを 探ってみました

次に、人生の最終段階における医療・ケアの決定といっても、なかなか自分のことについて考えるのは難しいので、小菅さんが関わった事例をお話していただきました。

グループワークでは「もしバナゲーム」のカード(写真)を使って、自分や他者の価値観を探ってみました。

「もしバナゲーム」(=もしものための話し合い)は亀田総合病院の在宅・緩和ケアの医師が開発したゲームで、レクリエーション的な雰囲気の中で、人生においての大事な価値観や自分自身の人生の最終段階の在り方、医療・ケアについて望むこと等について、さまざまな気づきを得ようというものです。

皆さん、ゲームをしながら「自分が不安に思っていること」「一番大切にしていること」「ここだけは譲れないこと」などに気がついていきました。



参加の皆さんからは「もしバナゲーム、とてもよかったです」。医療・介護職員からは「アドバンス・ケア・プランニングはこれからの医療や介護の世界で重要になってくると思った。チームで共有できたらと思う」などの感想をいただきました。

「もしバナゲーム」で盛り上がり、自分と同じような考えを持っている人がいることに気がつき「また会いましょう」と言って連絡先を交換するような場面もみられました。「看取り」という重くて縁起が良いとはいえないテーマでしたが、会の終了後の清々しい皆さんの表情が印象的でした。(中野 三代子)



創作花火(さんしょうリビングで)

素敵な和紙人形作り



熊谷恭子さん（88）のお宅には素敵な和紙人形がたくさんあって、訪問が楽しみです。熊谷さんはあんず居宅介護支援事業所のご利用者で、一時は腰が痛くて動けない時もありましたが、今は散歩できるくらいにお元気になられて、ますます人形作りにも励まれています。（聞き手・田中和世）

私は、墨田区本所生まれで兄弟は7人、自分は5番目です。育ったのは東向島でね。

昔からおっちょこちょいでそそっかしい面があったかなあ。何事も誰にも相談する事もなく自分で何でも決めていくタイプでしたから。

小さい頃から和紙人形やお手玉を作ったり、手芸が趣味で大好きでした。今でも包装紙を見たら人形の作品が頭に浮かんでくるんですよ。

私の父親は三味線、母親は歌が上手、粋な両親でした。台東区浅草の「木馬館」の舞台を見て、「私の方が上手だわ」と母が舞台に出ようとする事があったくらい（笑）。親の影響か、私が15、6歳の頃、藤間流の日本舞踊を踊っている人を2、3度見ただけで自分も同じように踊る事が出来て皆にびっくりされた事があったわ。

主人と出会ったのは23、4歳の頃だったかな。主人は横浜で流しをやっていたの。ちょうど私も兄弟でお店をやっていた頃で、主人はそこで近江俊郎や春日八郎など、よく歌って聞かせてくれていました。

3人の子供たちに恵まれ、私も仕事に励んだわ。今は、長女たちと一緒に住んでいて、いつも私の事を気にかけてくれていて、有難いと思っています。

ニッコリ笑顔が素敵な熊谷さんの和紙人形は、1つ1つどこかが違う作品です。「和紙人形の作り方を教えて」と声をかけられると快く答えています。喜んでもらえたらと、差し上げる事もあるそうです。

ケアマネ

の

こころ

あんず居宅介護支援事業所

ケアマネジャー 山本 弘美

私たち、居宅ケアマネジャーの仕事は、相談援助業務です。ご利用者を訪問し、お話を伺いながら、ご本人やご家族がどんな事に困っているか、どんなサービスが必要か、介護保険のルールを説明しながら、ニーズを把握し計画を立てて行きます。その計画書に添って、各事業所が適切に支援を行えているか、連携・連絡・調整を図りながら確認して行きます。

特に大事にすることは、ご本人がどんな暮らしをして行きたいかを一緒に考えていくことです。時には、癌末期の方の終末期の迎え方について、その方の気持ちに寄り添って相談していく事もあります。「あなたに出会えてよかった」「話しが出来てよかった」とご本人やご家族から言われ感動した事もあります。

ご本人の希望を一番に

ご利用者のとてもデリケートな心の動きを、幸樹会の各事業所の職員がさりげない優しさで汲みとり、ご利用者の心を穏やかにしたりすることもあります。そんな時は、このチームで支えてきて良かったと思える時です。

大変なケースもあります。手を差し伸べたくてもご利用者が何も受け入れなかったり、ご家族の意向が定まらなかったり、様々な問題があり、一人のケアマネジャーでは抱えきれないケースもあります。そんな時は、包括支援システム事例検討会で様々な職種の方々に集まって頂き、その方々の立場で沢山の案を出して頂きながら支援の方向をさぐって行ったり、居宅ケアマネ事業所同士で事例を検討しながら、ケアマネジャーとしての課題実現の力を高めています。

私たち、幸樹会のケアマネジャーは、全員、利用者様と真剣に向き合って、自分らしく生活できるように心から願い活動しています。

八柱学習会

●前回報告 7月19日（金）。助言者 武井幸穂氏
「医療的ケア児・障がい者支援について」「この命とともに～ひかるちゃんと家族の日々」を視る。15人参加。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

●8月16日（金）、18：30～

「認知症ケア実践者研修」報告

あんず居宅ケアマネジャー・岩橋多恵子
場所：幸樹会館2階会議室《参加自由》



デンマーク便り...⑬

ラスムッセン 京子

左派政権の誕生で、前政権が増額を約束していた医療福祉予算が更に増額計上されることが予想されています。2025年には、子どもの医療・予防・健康管理費、高齢者の入院・介護費用の増大が、それらの予算を上回ると見られています。医療経済学の専門家は、前政権が約束していた60億クローネの医療福祉予算の半分が現在進行中である国内の21中央病院の更なる拡大化のための建設費として使われるため、残りの半分しか実際の医療福祉に使う事ができず、病院職員の人件費、国内で消費される薬剤費などを含めると予算の倍以上の125億クローネが必要だと試算しています。

医療福祉予算をめぐる暑い夏

免疫治療が効果を及ぼし膠原病、癌、潰瘍性大腸炎、炎症性腸疾患といった治療薬は高価で病院の薬剤費が増大で病院経営を圧迫しています。結局、経費の節約、看護師や介護士の解雇などで各病院はやりくりしています。入院日数を減らすため、外来手術を増やし、出産も翌日には帰宅します。長期に入院させるには職員の数がないという現実があります。医師も以前はカルテを秘書が清書していましたが、口頭筆記のコンピューターシステムの導入で秘書の仕事が医師が行うようになりました。



昨年暮生まれお孫さんを抱いて嬉しそうな京子さんの夫トーキルさん

身近な医療充実を掲げて左派政権が誕生した訳ですが、医療費拡大をいかに最小にしていけるかも問われます。夜間救急の報酬交渉で自治体と一般医（家庭医）が対立し、「1813」電話センターができた話を以前に報告しました。応対窓口はベテラン看護師ですが、一寸これは解らないというのは電話センターにいる一般医の指示を受けて患者を振り分けるようになりました。開業しにくくなった一般医が、病院の夜間救急対応などの専門医として勤務しています。以前は開業した一般医（家庭医）は勤務医の3～4倍の収入がありましたが、診療報酬が安くなり現在は2～2.5倍という感じです。苦勞の多い診療所の経営管理の仕事を嫌って病院の夜間救急で勤務する一般医もでてきました。

国会開催までの下準備に余念がない国会議員、大臣、政府高官の暑い夏です。

ツバメだよりーその3

無事、巣立ちました！

今年は幸樹会館に2つのツバメの巣ができました。からたち薬局の入り口とさんしょうの入り口です。せっせと巣作りし、卵を抱えている様子を皆で見守っていましたが、カラスの襲撃で薬局の入り口の巣は壊れてしまいました。



さんしょうの入り口の巣も半壊となり、巣の下に割れた卵が落ちている状態でした。



「今年はツバメの成長が見られないのか…」と悲しんでいたのですが、ツバメはちがいました。崩れた巣を修理して再生させ、チョコンと座っています。まだ卵が残っていたのか？それとも産みなおしたのでしょうか？

「ツバメさん、すごいね！」

毎日巣の下を通りながら利用者さんたちと見守る日々が始まりました。さんしょうの皆さんが案山子を作りカラスの襲撃から守りました。

若いツバメが飛び回る時期になっても、なかなか巣に動きが見られなかったときは「もう孵化しないのかも」と心配でした。

が、やはりツバメは強かったです。無事に4羽の雛が誕生しました。みんなが心から喜びました。

せっせとエサを運ぶ親鳥、ピーピーとエサをねだる雛鳥たち。あっという間に巣立ちの時となり、7月24日ごろには、幸樹会館の周りの木々の中で可愛い4羽が群れながら飛ぶ練習をしていました。

今年は、自然に生きる生物の厳しさとたくましさの間近で見ることができました。（浅尾いずみ）

職員募集！ 非営利・働きがいある職場 看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550